



看護部通信



2020年4月

新型コロナウイルスが世界的に感染拡大し生活不安を抱える中、新年度がスタートしました。看護部では新規採用者8名と循脳センターからの異動・交流者4名、計12名の職員を新たに迎えました。看護師が増員されたからには結果を残さなければなりません。2020年度は、教育体系の変更、勤務編成の検討・試行など変革の年になりそうです。リハセン看護職の皆さん、ご協力をお願いします。(看護管理室)

<ポジティブな気持ちを持って>

NEW 看護師長 I

2020東京オリンピック ☆ 春 ☆ 桜 ☆ 心がウキウキするような季節なのですが、今年は『新型コロナウイルス』の影響で、私達の生活は見えない恐怖と不安におびやかされています。お世話になった方々とのお別れの場も自粛を余儀なくされ寂しい気持ちになりました。

そんな中、良かったなと思えたことが、突然の休校のため家でずっと過ごすことになった子供達との時間が増え、一緒に料理をしたり、片付けをしたり、おしゃべりしたり、子供達とゆったりした時間が過ごせたことです。



4月から新しい立場で働くことになり、やはり不安はいっぱいあるのですが、どんな時もポジティブな気持ちで頑張っていきたいと思います。

<リハセン周辺に生まれ育って考えること>

NEW 看護師長 H

今から40年以上前の五百刈田(現在のリハセン)は一面がリンゴ畑と雑木林でした。保育園に通っていた頃、この地にリンゴ狩りで訪れ、眼下の景色に感動したことを覚えています。

あれから月日が経ち、私が看護師になってから、「何やら大きな建物が建つらしいよ」と近所の噂になっていました。まさかその建物“リハセン”に今勤務しているとは、その頃の私には想像もできなかったことです。交通の便が悪く、雪は多いし熊も出る。近くに店もない。決して魅力的とは言えない環境ですが、なぜか周辺の景色をみると安心する自分がいます。

秋田で、そして生まれ育った地域で働き続けることが難しい今、家族や友人・職場のスタッフに支えられている事を実感し、これからもう少し頑張っていこうと思っている今日この頃です。



<新年度に向けて> **NEW** 看護部副部長 T

今、世界で新型コロナウイルス肺炎の感染が広まる中、とうとう東京2020オリンピックの延期が発表されました。このような不穏な空気に包まれた中、新年度の医療社会の動向がどのように変化していくのか、今はただ不安が募るばかりです。

私は昨年の秋にセカンドレベルを受講した際、2025年問題はもちろん、今後5年後を見据えた看護管理者の育成の必要性についても学びました。人口の高齢化が進む中、看護職も例外ではなく、世代交代による看護管理者の育成も重要であると実感しています。

新年度を迎え、私は看護部副部長として組織の中で担うべき役割を果たすため、日々の業務に臨みたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。

